



血液がん 2021年12月版

Oncologist Fact Report

血液がん診療医の情報収集レポート

2021年新薬の認知・処方実態や

処方に至るまでのカスタマージャーニー

株式会社メディカルトリビューン

Hematologic malignancy '21

目次

	ページ
1 血液がんに関するレポート 提供背景	3
2 調査概要	5
● 回答者属性	10
3 エグゼクティブサマリー	16
4 調査結果詳細	
● 第一部：血液がんの治療実態	
• 4-1：白血病治療薬	20
• 4-2：悪性リンパ腫治療薬	79
• 4-3：多発性骨髄腫治療薬	125
● 第二部：血液がんを診察する医師の情報収集実態	
• 4-4：日常診療	166
• 4-5：MR/MSL	189
• 4-6：学会/セミナー	205
• 4-7：カスタマージャーニー：白血病	217
• 4-8：カスタマージャーニー：悪性リンパ腫	229
• 4-9：カスタマージャーニー：多発性骨髄腫	239
• 4-10：キャズム理論を参考とした回答医師のグループ分けによる考察	246

調査概要

1回目（2020年12月版）

2回目（2021年7月版）

今回（2021年12月版）

調査 対象者条件

1. 血液内科、もしくは腫瘍内科
2. 20床以上の医療機関に勤務
3. 直近3年以内に血液がんの患者数が1人以上

1. 血液内科、もしくは腫瘍内科
2. 100床以上の医療機関に勤務
3. 直近1年以内に血液がんの患者数が1人以上

1. 血液内科、もしくは腫瘍内科
2. 100床以上の医療機関に勤務
3. 直近1年以内に血液がんの患者数が1人以上

標本抽出

Medical Tribune WEB
医師会員 + 新聞版会員

Medical Tribune WEB
医師会員 + 新聞版会員

Medical Tribune WEB
医師会員 + 新聞版会員

調査手法

WEBアンケート調査

WEBアンケート調査

WEBアンケート調査

サンプル数

211ss

223ss

242ss

調査時期

2020年11月末～12月上旬

2021年6月中旬～下旬

2021年11月初旬～中旬

分類	疾患名	略称
白血病	急性骨髄性白血病	AML
	急性リンパ芽球性白血病	ALL
	慢性骨髄性白血病	CML
	慢性リンパ性白血病	CLL
リンパ腫	濾胞性リンパ腫	FL
	びまん性大細胞型B細胞リンパ腫	DLBCL
	末梢性T細胞リンパ腫	PTCL
	成人T細胞白血病・リンパ腫	ATL
	皮膚T細胞性リンパ腫	CTCL
骨髄腫	多発性骨髄腫	MM

* 一般社団法人日本血液学会 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018年版補訂版をベースに一部加筆

2015年以降に発売された血液がんの薬剤を対象とし、過去の処方経験や処方に至るまでの経路を聴取した。

	適応疾患	一般名	商品名	企業名	大分類	中分類	発売年月
1	AML	ギルテリチニブ	ゾスパタ	アステラス製薬	チロシンキナーゼ阻害薬	FLT3阻害薬	2018年12月
2	AML	キザルチニブ	ヴァンフリタ	第一三共	チロシンキナーゼ阻害薬	FLT3阻害薬	2019年10月
3	AML ※適応追加	ベネトクラクス	ベネクレクスタ	アッヴィ	抗悪性腫瘍薬	BCL-2阻害薬	2021年3月
4	ALL	ブリナツモマブ	ビーリンサイト	アステラス製薬 /アムジェン	抗悪性腫瘍薬	抗CD19/CD3抗体	2018年11月
5	ALL	チサゲンレクルユーセル	キムリア	ノバルティスファーマ	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2019年5月
6	ALL	イノツズマブ オゾガマイシン	ベスポンサ	ファイザー	DNA合成阻害薬	抗体薬物複合体	2018年4月
7	CLL	アカラブルチニブ	カルケンス	アストラゼネカ	チロシンキナーゼ阻害薬	BTK阻害薬	2021年4月
8	CML ※適応追加	ボスチニブ	ボシュリフ	ファイザー	チロシンキナーゼ阻害薬	SRC/ABL阻害薬	2020年6月

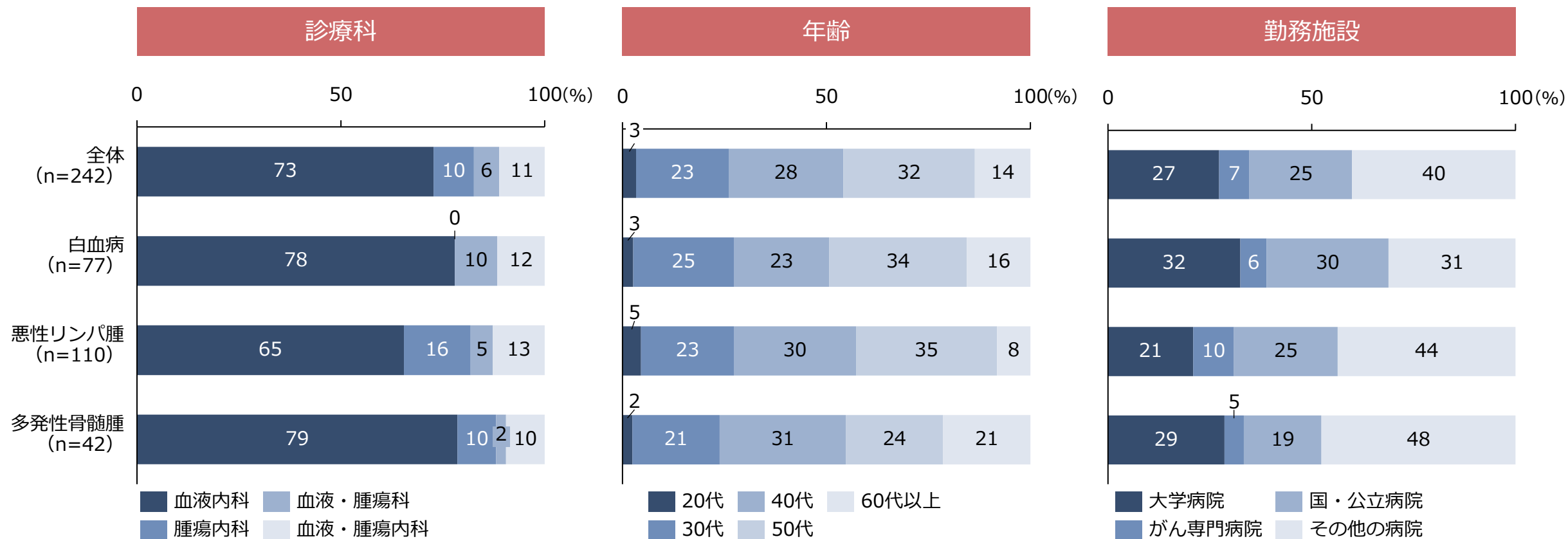
調査対象薬剤 一覧（悪性リンパ腫・多発性骨髄腫）

2015年以降に発売された血液がんの薬剤を対象とし、過去の処方経験や処方に至るまでの経路を聴取した。

	適応疾患	一般名	商品名	企業名	大分類	中分類	発売年月
9	DLBCL	チサゲンレクルユーセル	キムリア	ノバルティスファーマ	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2019年5月
10	DLBCL/FL	リソカブタゲン マラルユーセル	ブレヤンジ	ブリistol・マイヤーズ スクイブ	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	2021年5月
11	DLBCL	ポラツズマブ ベドチン	ポライビー	中外製薬	抗悪性腫瘍薬	微小管阻害薬結合 抗CD79bモノクローナル抗体	2021年5月
12	DLBCL	アキシカブタゲン シロルユーセル	イエスカルタ	第一三共	抗悪性腫瘍薬	CAR-T療法	未発売
13	PTCL/CTCL	デニロイキン ジフチトクス	レミトロ	エーザイ	抗悪性腫瘍薬	生物学的応答調節物質	2021年5月
14	FL	タゼメトスタット	タズベリク	エーザイ	抗悪性腫瘍薬	ヒストンメチル化酵素阻害薬	2021年8月
15	ATL	ツシジノスタット	ハイヤスタ	Meiji Seika ファルマ	抗悪性腫瘍薬	ヒストン脱アセチル化酵素阻害薬	2021年10月
16	MM	イサツキシマブ	サークリサ	サノフィ	抗悪性腫瘍薬	抗CD38モノクローナル抗体	2020年8月
17	MM	ダラツムマブ/ボルヒアルロニダーゼ アルファ配合剤	ダラキューロ	ヤンセンファーマ	抗悪性腫瘍薬	ヒト型 抗CD38モノクローナル抗体	2021年5月
18	MM	カルフィルゾミブ	カイプロリス	小野薬品工業	抗悪性腫瘍薬	プロテアソーム阻害薬	2016年8月
19	MM	レナリドミド	レブラミド	ブリistol・マイヤーズ スクイブ	抗造血器悪性腫瘍薬	TNF阻害薬	2015年12月
20	MM	ポマリドミド	ポマリスト	ブリistol・マイヤーズ スクイブ	抗造血器悪性腫瘍薬	代謝酵素基質薬	2015年5月
21	MM	イキサゾミブ	ニンラーロ	武田薬品工業	抗悪性腫瘍薬	プロテアソーム阻害薬	2017年5月

専門別

診療科は、血液内科が7割以上
 年代の分布は30代、40代、50代が中心となっている
 勤務先施設は血液内科を設定している大規模病院が主の構成となっている



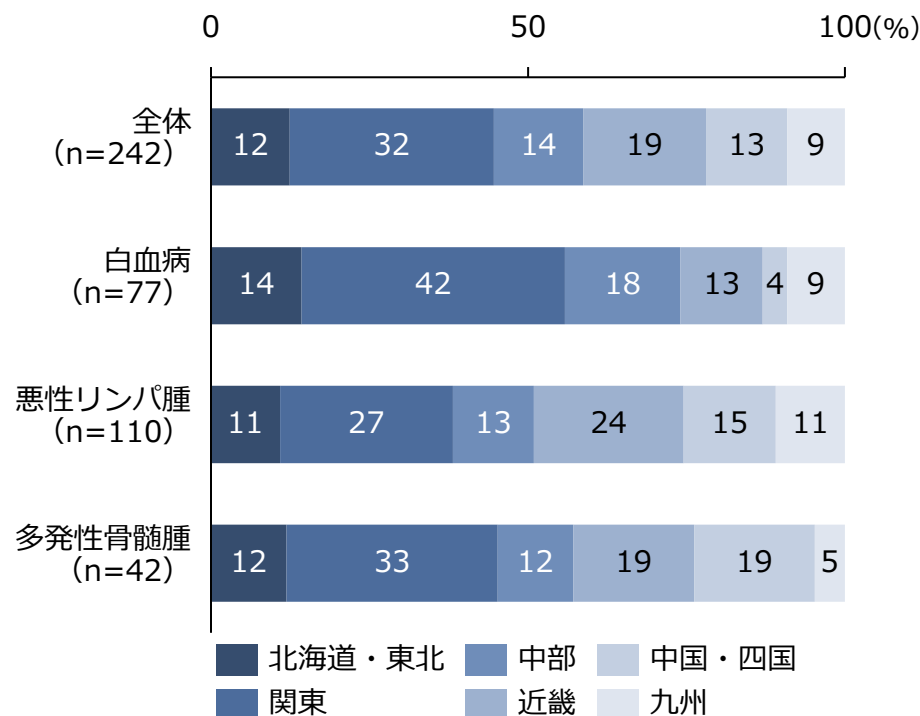
SQ1.先生の主たる診療科を教えてください。(SA)
 F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA)
 F1.先生の主たる勤務施設を教えてください。(SA)

回答者基本属性②

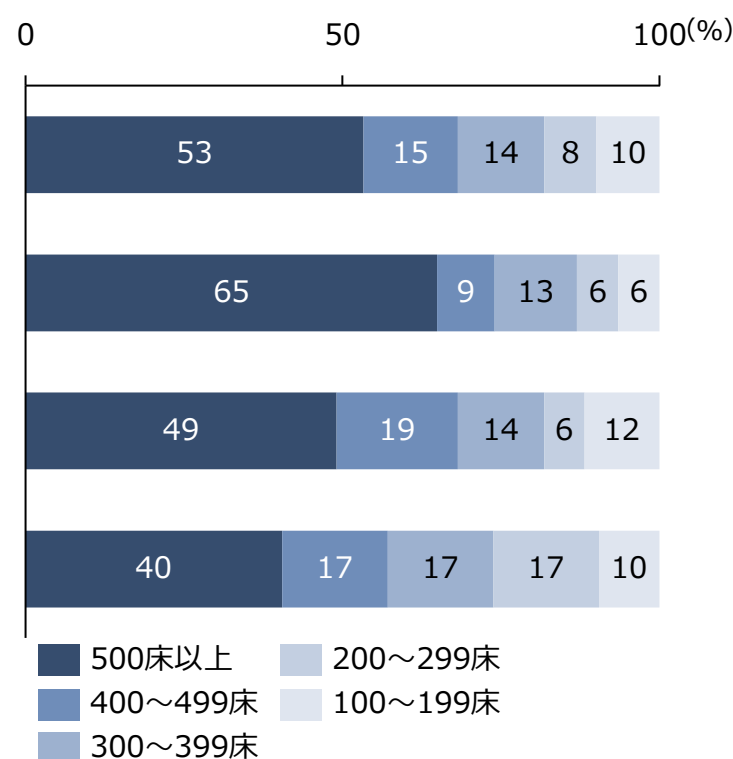
専門別

エリアに関しては関東や近畿が中心
 病床数は多発性骨髄腫群では500床未満の病院が多い傾向がある
 7割程度の医師が処方権を有する医師であった

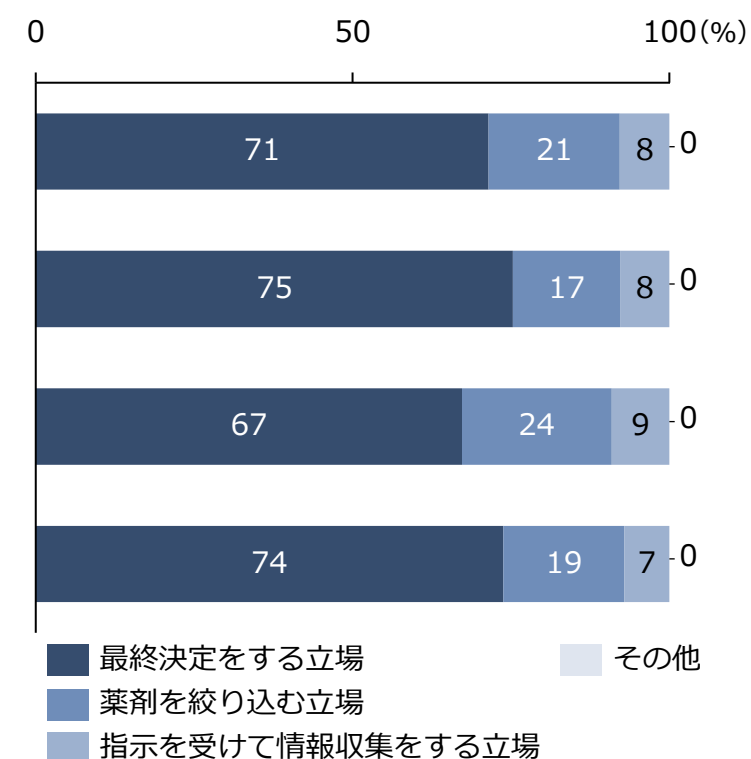
勤務施設のエリア



病床数



処方権



F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA)

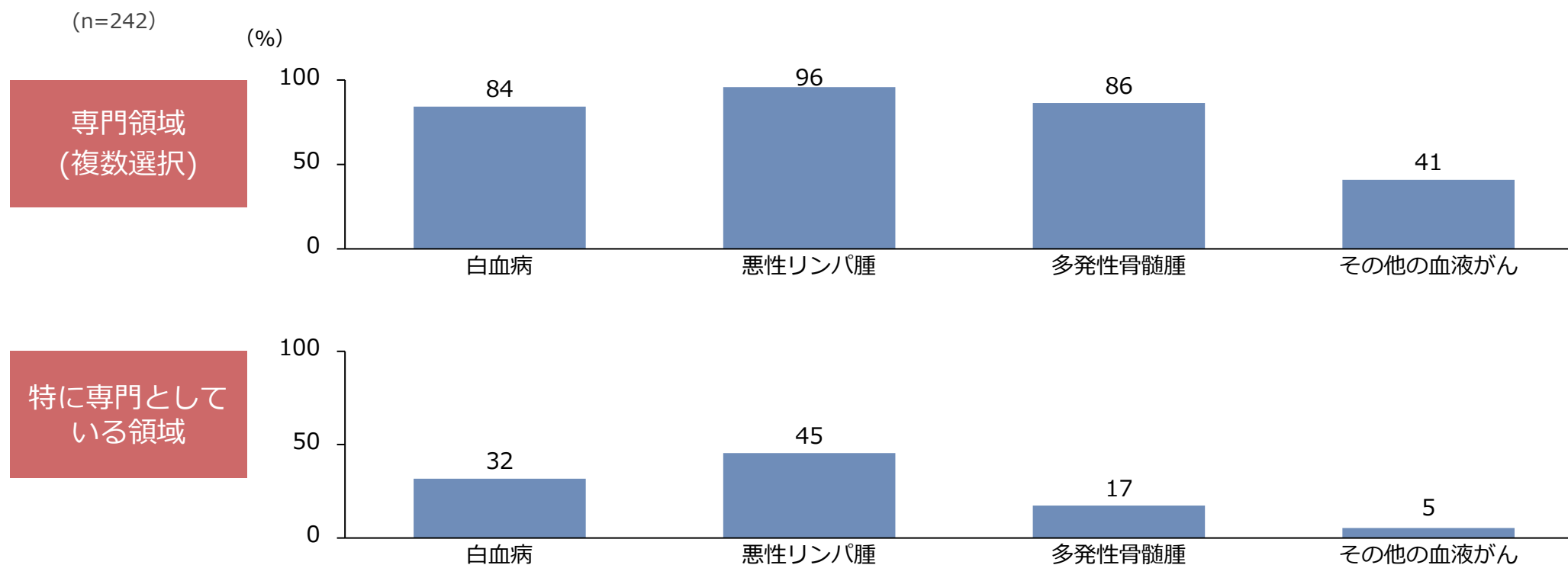
SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数を教えてください。(SA)

F5.先生はご自身の患者に対し、処方薬剤を決定するお立場にいらっしゃいますか。(SA)

回答者属性：専門領域

医師自身が考える専門領域として、悪性リンパ腫を専門としていると回答された医師が45%と最も多く、白血病は32%、多発性骨髄腫は17%。

※日本の血液内科医は各血液がんを専門としているケースが多いため、以降レポートの群分けでは、特に専門領域別(白血病/リンパ腫/骨髄腫)での分析を基本としている



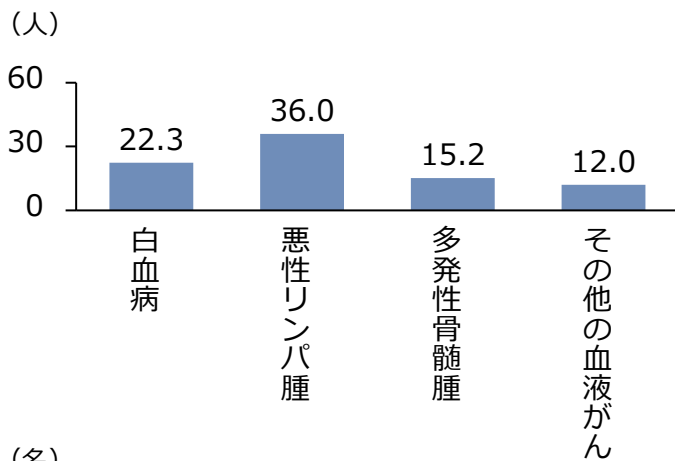
SQ3.造血管腫瘍（血液がん、以降は血液がんと表記）における、先生のご専門領域について教えてください。（MA/SA）

回答者属性：診療患者数

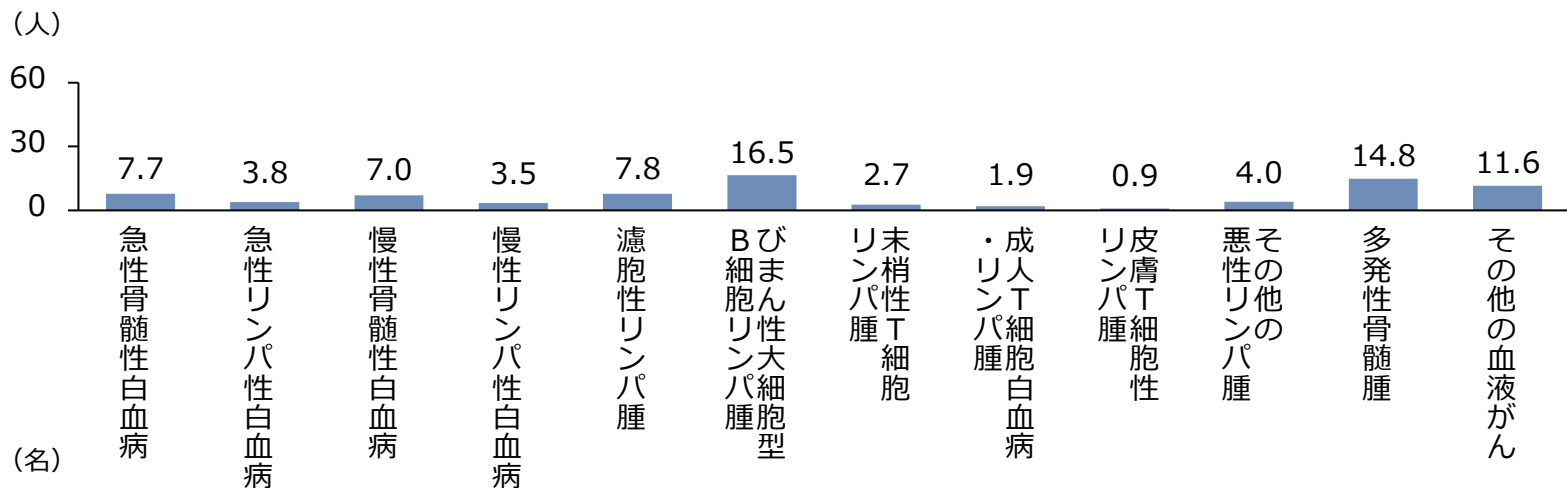
専門別

✓ 白血病や多発性骨髄腫は各専門領域の患者数が多くみられる

直近1年間の患者数（平均値）



直近1年間の患者数：疾患別（平均値）



(名)

疾患別	白血病 (n=77)	悪性リンパ腫 (n=110)	多発性骨髄腫 (n=42)	その他の血液がん
白血病	36	37	14	12
悪性リンパ腫	17	37	13	12
多発性骨髄腫	15	32	25	12

(名)

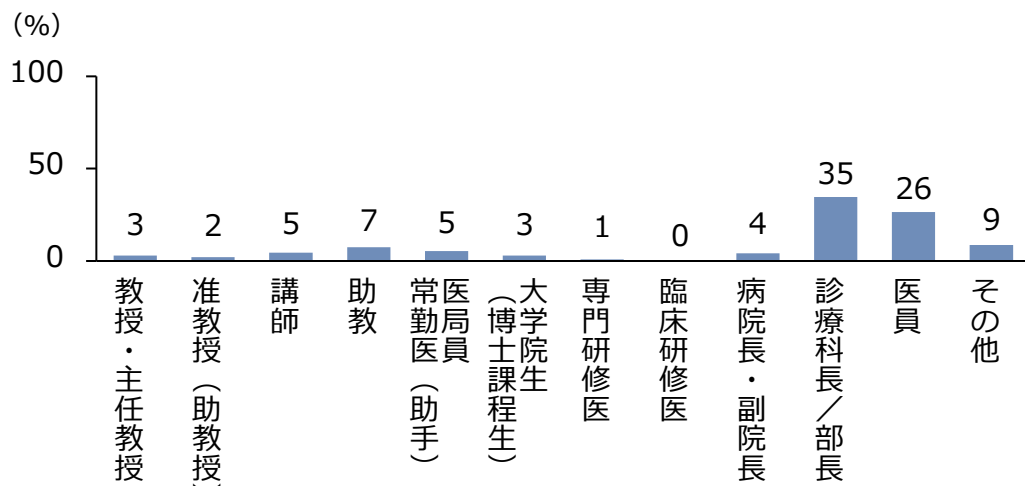
疾患別	急性骨髄性白血病	急性リンパ性白血病	慢性骨髄性白血病	慢性リンパ性白血病	濾胞性リンパ腫	Bびまん性大細胞型リンパ腫	リンパ腫末梢性T細胞	成人T細胞白血病リンパ腫	リンパ腫皮膚T細胞性	悪性リンパ腫	その他の血液がん	多発性骨髄腫	その他の血液がん
急性骨髄性白血病	12	7	10	5	8	17	3	2	1	4	15	15	15
急性リンパ性白血病	6	2	6	3	8	16	3	2	1	4	12	12	10
慢性骨髄性白血病	5	2	6	2	7	15	2	1	1	4	23	23	10

※SQ4.【直近1年以内】に先生ご自身が診療した、血液がんのおおよその患者数をカルテベースで教えてください。（数値）

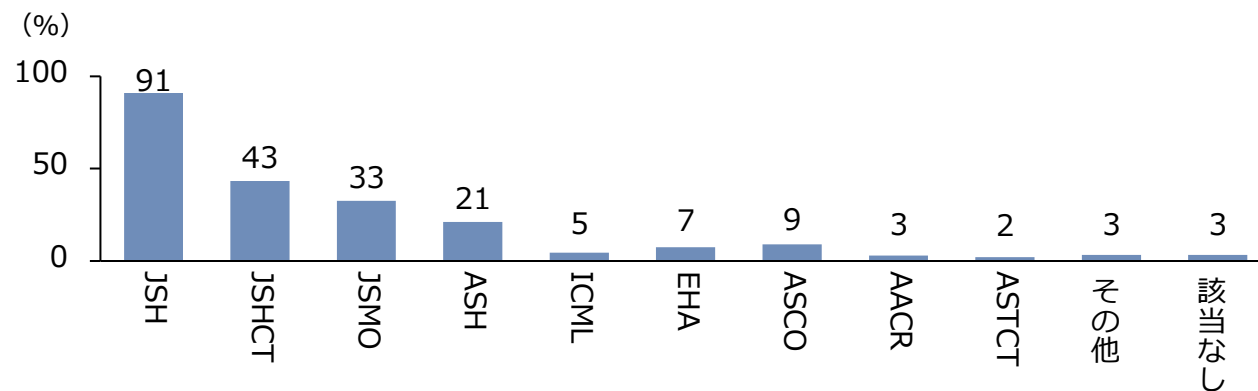
専門別

- ✓ 役職をみると、悪性リンパ腫群では診療科長や部長レベルが、多発性骨髄腫では助教の割合が若干ではあるが高い傾向
- ✓ 所属学会として、白血病専門医は、JSHCTやASHへの所属(参加含め)高くみられる

役職



所属学会



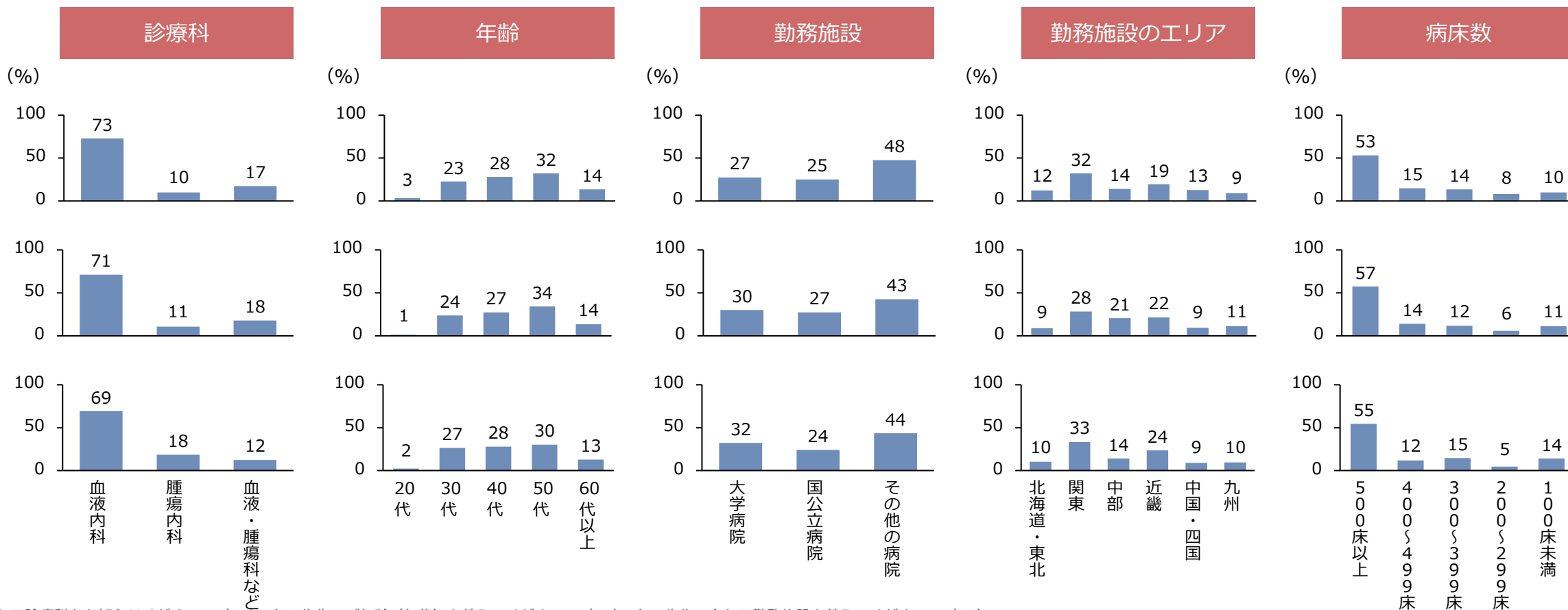
癌種	教授・主任教授	准教授 (助教授)	講師	助教	常勤医員 (助手)	大学院生 (博士課程生)	専門研修医	臨床研修医	病院長・副院長	診療科長/部長	医員	その他
白血病 (n=77)	4	4	5	3	5	5	0	0	6	29	23	16
悪性リンパ腫 (n=110)	2	2	4	9	5	1	2	0	2	41	30	4
多発性骨髄腫 (n=42)	5	0	2	12	5	5	0	0	5	33	24	10

癌種	JSH	JSHCT	JSMO	ASH	ICML	EHA	ASCO	AACR	ASTCT	その他	該当なし
白血病 (n=77)	95	62	27	30	3	12	8	3	5	3	3
悪性リンパ腫 (n=110)	89	35	35	15	6	5	9	3	1	4	5
多発性骨髄腫 (n=42)	88	38	40	26	5	7	10	5	0	5	2

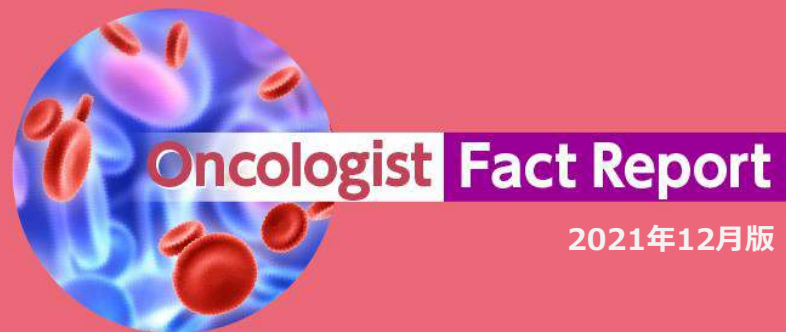
F4.先生の主たる勤務施設での役職を教えてください。(SA) / F6.先生が所属・参加される学会を全て教えてください。(MA)

時系列比較

過去2回の調査時の属性と大きな違いはみられない



SQ1.先生の主たる診療科をお知らせください。(SA) / F3.先生のご年齢(年代)を教えてください。(SA) / F1.先生の主たる勤務施設を教えてください。(SA) / F2.先生の勤務先施設の所在地を教えてください。(SA) / SQ2.先生が主に勤務されている施設の、病床数を教えてください。(SA)



CONFIDENTIAL

本資料は、貴社社内関係者のみによって使用されるものとし、本資料のいかなる部分についても、株式会社メディカルトリビューンの事前の書面による承諾を得ずに、回覧・引用・複製、あるいは貴社外部に配布してはならないものとします。